HITOKOMART No.10

篠原ユキオ

1948年　東大阪市生まれ
京都教育大美術科卒
京都精華大学名誉教授
（公社）日本漫画家協会参与
FECO JAPAN 会長

多くの家庭でも同じだと思うがわが家の納戸には二人の娘たちが子どもの頃のおもちゃやぬいぐるみが大量に詰まっている。74歳になる私の物は少ないがいくつかの品物は古い荷物の中から時折現れて、昔の記憶を甦らせてくれる。

中には私や家内が子供の頃に使っていたボードゲームもいくつか混ざっていて、それらは今も私と孫のコミュニケーションツールとして活用している。先日は亡くなった家内が小学生時代に使っていた小さなルーレットの箱の裏に、当時のクラス名と名前の手書きの文字を見つけて、小学3年生の家内の遊ぶ姿を思い浮かべていた。

子供の頃のおもちゃ箱は幼い日に連れ戻してくれるタイムマシンである。

糸を張る

象を測る

毎日の入浴時にヘルスメーターに乗るのがクセになった。
最近のものはいろんな機能が付いていて、体脂肪率や骨密度など細かいデーターを表示してくれるので面白い。
体重はあまり気にはしていないのだが、一つ楽しみにしているのが『身体年齢』という項目だ。
娘に言わせると、あれは誰でも大抵低めに表示されるという事だが現在はずっと61歳表示が続いていて、ひと回り以上若く表示されるのはやはり嬉しいものだ。
そこでちょっと欲を出して50才台を目標にしているのだがこれがなかなか高い壁になっている。
すぐに手が届きそうな目標は継続の条件だという事を実感している。

音楽を観る

昔ながらのレコードがちょっとしたブームのようだ。
レコードを手にとって、盤面に針を下す作業も若い世代には新鮮に感じる要素のようで、一時は入手困難だったレコード針もアマゾンで簡単に手に入る。
針がレコードの溝を走る度に盤も針も磨耗して行くから、音の劣化という面ではデジタルには敵わない。
しかし音の柔らかさとか暖かさがアナログレコードの魅力なのだという。
私自身は音に対してそれほどのこだわりは無いのだが、ビジュアルとしてのレコードには思い入れがあって、魅力的なレコードジャケットのデザインには若い頃から多大なる影響を受けたものだった。
今はそれが無いのが淋しい。
音楽を目でも楽しめた時代だった。

レコードを歌う

オオサンショウウオと『だるまさんがころんだ』をする

『だるまさんがころんだ』は関東の言い方。関西では『ぼん（坊）さんが屁をこいた』である。

いかにも関西と関東の気質の違いがはっきりと出ている。

この遊びは日本だけかと思っていたのだが調べてみると、いろいろな言い方の違いはあるものの、ほぼ同じパターンの遊びが世界中にあるらしい。

アメリカでは『Red light Green Light』と言うのだそうだ。どうやら信号と同じで青の時は動いて、赤になったら止まれということなのだろう。

ちなみにイギリスでは無言のままで、オニは突然振り返るという方法らしい。

道具は何もなくても誰でも参加できるこの遊びは万国共通なのだという事がわかった。

私は若い頃、某マンガ週刊誌で4コマ漫画を連載していた時期がある。

あとにも先にも人生で一度だけ、飛び込みで東京の出版社に原稿の持ち込みをした事があるのだが、持ち込みの原稿が足らず、新幹線の中でも描いていた思い出がある。

当時対応してくれた編集者との出会いも運が良かったのだがすぐに次の週から連載をもらうことができた。

最初の2回は時代劇4コマだったのだが編集部の注文で3週目からは子どもを主人公にした生活4コママンガを書くことになった。そのタイトルが『だるまさんがころんだ』であった。

そんなわけで、関西人の私だが坊さんよりだるまさんに愛着があるのである。

龍を飛ばす

透明人間になれたら

もしも透明人間になったら、と考えた事は誰もが一度はあるだろう。
ちょっとしたイタズラや普通では入り込めない場所に侵入する事など、子どもの頃はそれを想像するだけで一人で豊かな時間を過ごせたものだ。
小説や映画の中でもたびたび登場するが、透明人間になるパターンは2つである。
特殊な薬を飲んだり注射する方法と透明になる服を着る方法だ。
しかしどちらも欠点があって、薬の場合は身体が透明になっても衣服はそのままのなで裸でないといけない。
夏場ならまだしも、寒い季節は耐えられないし肌を守る物がないのだから大変だ。虫にも刺され放題だ。
おまけに薬の副作用も気になる。
透明になる服の場合は手や顔を含めて全身を覆い尽すのはなかなか辛そうだし、入れ墨は勿論の事、ちょっとした汚れでもとても目立つ。
そして当然の事ながら、街中では人も車も避けてはくれない。
そんな風にいろいろ考えていくと、透明であることのメリットはほとんど無いという結論にたどり着く。
何物にも制約されずに自由に生きるという事が実はとても不自由であるという現実社会とよく似ている。